

港湾振興便り



2019. 2

第141号

*:

目 次

*:

1 ポートエッセイ

— 港湾活性化に新年から団結 —

— 新潟では秋篠宮殿下を迎えて記念式典 —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(元新潟市長) 篠田 昭 ～

2 トピック

●「ザ・シンポジウムみなとin石狩」を開催

(「ザ・シンポジウムみなと」実行委員会)

●「仙台港首都圏セミナー」を開催

(仙台国際貿易港整備利用促進協議会・宮城県土木部港湾課)

●「相馬港の利活用を考えるシンポジウム」を開催

(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

●金沢港県営東部上屋が完成しました

(石川県土木部港湾課)

●海と日本プロジェクト「こども港調査隊 課外授業」が開催されました!

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

●敦賀港クルーズセミナーが開催されました

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

●下田港灯台製作現場見学会を開催

(中部地方整備局 清水港湾事務所)

●祝! 大阪湾岸道路西伸部起工式

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

●「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議」を開催

(中国地方整備局 港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室)

3 お知らせ

◇義経上陸の地 鼠ヶ関を歩こう会 (あつみ観光協会)

*:

1 ポートエッセイ

— 港湾活性化に新年から団結 —

— 新潟では秋篠宮殿下を迎えて記念式典 —

～日本港湾振興団体連合会会長(元新潟市長) 篠田 昭～

*:

港湾関係者にとって、先月22日から24日にかけては忙しい日程となった。新潟では開港150周年の式典と祝賀会が23日に開かれ、それに先立って22日から秋篠宮・同妃両殿下が新潟にお成りいただき、記念の式典に花を添えていただいた。23日の夕方からは恒例の港湾団体新春賀詞交換会が東京で開かれ、国交省の下司弘之・港湾局長をはじめ多くの関係者から「掛け持ち」をいただき、慌ただしい日程となり恐縮している。24日朝には自民党港湾議連総会も自民党本部で開かれ、新春から「港湾の活性化」を誓い合う会合が相次いだ。

(開港150周年の式典が盛大に)

開港5港の一つの新潟港は1869年1月1日に開港150周年の記念日を迎え、その記念式典が23日に開かれた。この時期、新潟には飛来数日本一のコハクチョウをはじめ数多くのハクチョウがやってくるのだが、生物、とりわけ鳥がお好きな秋篠宮殿下には、この機会にハクチョウをはじめ多くの冬鳥もご覧いただき「大いに楽しめた」とのお言葉もいただいた。記念式典では秋篠宮殿下からお言葉を賜り、参加者一同が改めて港湾の重要性や可能性を心に刻む良い機会となった。

(賀詞交歓会に多くの国会議員が参加)

その夕方、東京のホテルでは「港湾都市協議会役員・幹事合同会議」と「ポート・オブ・ザ・イヤー2018表彰式」に次いで、わが日本港湾振興団体連合会も主催団体となっている「港湾関係団体新春賀詞交歓会」が開催された。今年も宗岡正二・日本港湾協会長の挨拶で始まり、望月義夫・自民港湾議連会長をはじめ多くの国会議員の参加をいただいた。私も挨拶に立ち、港湾関係の事業費を含め良い形で編成いただいた新年度予算の早期成立をお願いした。下司港湾局長に言わせれば「まだまだ足りない」港湾関係の予算ではあるが、前年度と比べても充実しているのは皆さんの協力のお陰と感謝している。

(港湾議連総会では参加首長すべてが発言)

翌24日朝からは自民党本部で自民党港湾議連総会が開かれ、こちら望月会長をはじめ多くの議連加入議員から出席いただいた。全国から20人を超す首長が参加したと思うが、今年は全員が発言し、お礼やら要望やらを述べていた。中には災害対応の要望をパネルにしてきた市長もおり、自民港湾議連が大変に頼りにされていることを実感する総会となった。

それぞれの地域でも都道府県や市町村の来年度予算案が編成される時期を迎えている。港湾の振興と地域の活性化に少しでもつながる予算となるよう声を挙げていこう。

*:

2 トピック

*:

●「ザ・シンポジウムみなとin石狩」を開催

(「ザ・シンポジウムみなと」実行委員会)

平成30年12月20日(木)に北海道石狩市内において、「ザ・シンポジウムみなと in 石狩」を開催し、市民ら約250名の参加がありました。

シンポジウムでは、フリーアナウンサー野宮範子氏による司会のもと、女優・タレントの千堂あきほ氏と野宮氏による「移住して感じた北海道の魅力」の記念対談に続き、北海道大学工学研究院の近久武美特任教授による「次世代のエネルギー供給における石狩湾新港の役割」をテーマとした基調講演のほか、プログラムの最後に行われたパネルディスカッションでは、野宮氏をコーディネーターに、千堂氏や近久特任教授のほか、田岡石狩市長や木元北海道電力(株)経営企画室担当部長、幸村(株)グリーンパワーインベストメント専務執行役員がパネリストとして参加し、石狩湾新港がエネルギー拠点港として担うべき役割について熱心な議論が交わされました。



記念対談の様子

野宮範子氏(左)と千堂あきほ氏(右)



パネルディスカッションの様子

●「仙台港首都圏セミナー」を開催

(仙台国際貿易港整備利用促進協議会・宮城県土木部港湾課)

2月6日(水)、宮城県・仙台市・仙台商工会議所など官民で組織する仙台国際貿易港整備利用促進協議会は、東京都内において、仙台港の利用促進を図るため「仙台港首都圏セミナー」を開催しました。

当日は、荷主企業や物流事業者、船会社など約460名の方に御参加いただきました。

セミナーでは、主催者を代表して鎌田宏仙台商工会議所会頭が挨拶し、コンテナ貨物取扱量が4年連続で過去最高を記録したことへの御礼などを述べました。また、仙台塩釜港利用企業の生の声として、弘進ゴム(株)様、高麗海運ジャパン(株)様から御講演をいただきました。その後、宮城県から仙台塩釜港の近況として、定期航路の就航状況やコンテナ貨物取扱量、高砂コンテナターミナルの拡張をはじめとする港湾整備の状況などの説明を行い、お集まりの皆様は関心を持って聴講されていました。



挨拶する鎌田仙台商工会議所会頭



会場の様子

●「相馬港の利活用を考えるシンポジウム」を開催

(東北地方整備局 小名浜港湾事務所)

2月6日(水)、東北地方整備局小名浜港湾事務所、福島河川国道事務所及び磐城国道事務所の主催で、相馬市のエヌリゾート福島において「相馬港の利活用を考えるシンポジウム」を開催しました。

当シンポジウムは、相馬港の利活用をテーマとして、広く福島県内陸も含めた地域経済の活性化を目的として開催したもので、約200名の方々にご参加いただきました。特別講演では、東北地方整備局の酒井港湾空港部長より、港湾政策及び相馬港への期待について説明を行い、基調講演では、中川 JETRO 福島貿易情報センター所長より、福島県内企業の海外展開事例などについてご紹介いただきました。また、吉田福島大学准教授をコーディネーターとしたパネルディスカッションでは、草野相馬商工会議所会頭、佐藤井本商運(株)取締役、大久保(株)アイ・テック相馬支店長、酒井港湾空港部長をパネリストとし、相馬港のポテンシャルと将来像などについて意見を交わしました。



講師の中川JETRO福島貿易情報センター所長



パネルディスカッションの様子

●金沢港県営東部上屋が完成しました

(石川県 土木部 港湾課)

1月28日(月)に、金沢港県営東部上屋が完成し、盛大に完成式が行われました。

金沢港は、平成19年に世界的建機メーカーが立地したことを契機として、近年、多くの県内企業の皆様にご利用いただけるようになり、コンテナ貨物の取扱量が飛躍的に増加しております。

そのため石川県では、金沢港機能強化整備計画を策定し、点在していた上屋を御供田コンテナターミナル横の東部工業用地に移転・集約し、昨年4月から新たな大型コンテナ上屋の建設にとりかかり、この度「金沢港県営東部上屋」が完成の運びとなりました。

この上屋の完成により、2基のガントリークレーンと相まって、コンテナ荷役作業の効率が大幅に向上し、物流の拠点に相応しい機能強化が図られることとなります。

石川県では今後とも、県内企業をはじめとしたより多くの皆様方に金沢港を利用いただけるよう、官民一体となったポートセールスを展開し、貨物のさらなる確保や航路の拡充に努めてまいりたいと考えています。



完成した金沢港県営東部上屋



テープカット及びくす玉開披する関係者

●海と日本プロジェクト「こども港調査隊 課外授業」が開催されました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

平成30年12月18日(火)、敦賀市立栗野南小学校の5年生99名を対象に、「こども港調査隊 課外授業」が開催されました。

本イベントは、海に親しむ授業を全国で展開する海と日本プロジェクトが、「日本海のみなど大発見こども港調査隊」の取り組みをまとめたガイドブックの完成を機に企画したものです。

授業では、港が日本の玄関口となり物や人を運んでいることや、港の施設が安全で効率的な荷役を支えていることなどの港の役割を始め、敦賀港の貨物量や北海道との航路が充実していることなど、地元にある身近な港の特徴を学びました。

説明後には、「港の中でどの施設が一番大切ですか」「どうして福井県にはたくさん港があるの？」など鋭い質問が多数寄せられました。

このようなイベントを機に港についてさらに理解を深め、多くの子ども達に港の役割や大切さを知ってもらいたいと思います。また、地元にある敦賀港を身近な存在として認識し、今後盛り上げてくれることを期待しています。



みんなで写真撮影！



こども港調査隊ガイドブックの表紙

●「敦賀港クルーズセミナー」が開催されました！

(北陸地方整備局 敦賀港湾事務所)

平成31年1月18日(金)、クルーズ客船誘致を核に敦賀港と敦賀市内の賑わい創出を目指す「敦賀みなと振興会」が、クルーズ業界のトレンドを学ぶ、「敦賀港クルーズセミナー」を開催し、会場となったニューサンピア敦賀には港湾関係者や市民らなど約70名が参加しました。

セミナーでは、冒頭に敦賀市渚上市長の挨拶の後、株式会社日本海事新聞社編集局の沖田氏が、「日本におけるクルーズ客船のトレンド」について、国内発着クルーズを運航する4船社が、「各社が実施するクルーズの特徴や誘致のポイント」について紹介しました。

クルーズ船誘致のポイントについて、「クルーズ船をおもてなしする習慣は外国の港ではあまりないので、日本の港の歓迎に多くの乗客が感動している。歓迎が賑わうほど、乗船客の満足度が高くなる傾向がある。」と話があり、クルーズ船歓迎イベントの重要性を再認識することができました。

敦賀港湾事務所は、敦賀港に一隻でも多くのクルーズ船が寄港するよう、積極的に歓迎イベントに協力して参ります。

(※)セミナーの講師として参加された4船社は以下の通り。

日本クルーズ客船株式会社 : ぱしふいっくびいなす
株式会社カーニバル・ジャパン: ダイヤモンド・プリンセス
コスタクルーズ日本支社 : コスタネオロマンチカ
郵船クルーズ株式会社 : 飛鳥Ⅱ



挨拶される渚上敦賀市長



会場の様子

●下田港灯台製作現場見学会を開催

(中部地方整備局 清水港湾事務所)

平成31年1月12日(土)、下田港内の灯台製作現場において、下田港沖の防波堤(東)の先端部に設置する灯台の見学会を開催しました。当日は悪天候にも関わらず県内外からの親子連れなど32名が参加しました。

完成した灯台は、高さ 6.9m、重さ 90t、灯台の光の到達距離約 9km、全面赤色のタイル張りで、下田港の海象条件に適した八角錐の形をしています。参加者は灯台の中に入ったり、高所作業車に乗って見下ろす等、灯台の高さや大きさを間近で体感しました。

また、防波堤の津波模型実験と灯台に設置される灯ろうの展示を行い、仕組みや役割の説明をしました。

参加者からは、「普段見られない灯台を中や上から見学する体験ができてとても勉強になった。」、「高所作業車に乗れて楽しかった。」等の感想が寄せられました。

この後、灯台は防波堤に設置され、2月中の初点灯にあわせて航路が切り替えられます。



高所作業車からの見学の様子



(灯ろう)・防波堤模型実験の様子

●祝！ 大阪湾岸道路西伸部起工式

(近畿地方整備局 神戸港湾事務所)

平成30年12月22日(土)、大阪湾岸道路西伸部起工式が近畿地方整備局、兵庫県、神戸市、阪神高速道路(株)の共催により神戸ファッションプラザ(神戸港六甲アイランド島内)で約500名の来場者を迎え開催しました。

今回起工した大阪湾岸道路西伸部の「大阪湾岸道路」とは、神戸淡路鳴門自動車道(垂水ジャンクション)から関西国際空港(りんくうジャンクション)を結ぶ延長約80kmの自動車専用道路であり、その「西伸部」は六甲アイランド北(神戸市東灘区向洋町東)から駒栄(同市長田区西尻池町)に至る延長14.5kmのバイパス事業です。

西伸部の整備は、国際コンテナ戦略港湾 阪神港の機能強化による物流の効率化とともに、阪神臨海地域の交通負荷を軽減し、交通渋滞や沿道環境などの交通課題の緩和を図ることを目的としています。

平成28年に事業化され、平成29年に公共事業と有料道路事業との合併施行方式の導入、平成30年7月に港湾事業の参画が決まりました。



式典は、下司港湾局長のご出席のもと、国土交通省より池田道路局長の式辞に始まり、井戸兵庫県知事、久元神戸市長、幸阪神高速道路(株)代表取締役社長による挨拶に続いて、末松信介参議院議員、赤羽一嘉衆議院議員、盛山正仁衆議院議員、谷公一衆議院議員、藤井比早之衆議院議員、山田賢司衆議院議員、中野洋昌衆議院議員、伊藤孝江参議院議員、清水貴之参議院議員、片山大介参議院議員、足立敏之参議院議員、松本正義関西経済連合会会長、家次恒神戸商工会議所会頭から来賓祝辞を頂き、祝辞の中で早期の完成を期待される声を多く頂きました。その後、ビデオレターによる地域の期待の声やダンス披露などが行われた後に鍬入れを行い、最後に松本兵庫県議会議長、北山神戸市会議長の御発声により無事終了しました。



オープニングイベント（吹奏楽演奏）



式辞（国交省 池田道路局長）



挨拶（兵庫県知事）



挨拶（神戸市長）



挨拶（阪神高速道路(株) 幸社長）



主催者紹介（国交省 下司港湾局長）



祝辞（末松衆議院議員）



祝辞（赤羽衆議院議員）



地域の期待の声（ビデオレター）



ダンス披露



鍬入れ



御発声（兵庫県議会 松本議長、神戸市会 北山議長）

● 「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議」を開催

(中国地方整備局 港湾空港部クルーズ振興・港湾物流企画室)

平成30年12月13日(木)に、「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議」を開催しました。

「瀬戸内海クルーズ推進会議」は、瀬戸内海が「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指し、沿岸自治体、国の機関で構成される「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」の下に、平成30年6月に設置したものです。

第1回全体会議では、当会議の代表として中国経済連合会 苺田 知英 会長、副代表として四国経済連合会 千葉 昭 会長を選出いたしました。また同会議において、近畿・中国・四国・九州の各エリアにエリア会議を設置し、エリアごとの瀬戸内海クルーズの推進を図ることを確認しました。さらに本推進会議として進める取組みに関する議論がなされ、その内容について確認しました。

本会議を通じ、瀬戸内海クルーズの推進を積極的に進めてまいります。



「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議」の様子



中国経済連合会 苺田 知英 会長
による代表挨拶

